

平成26年第11回定例教育委員会

平成26年11月25日(火)午後2時00分
江別市教育庁舎 大会議室

出席者	委員長	長谷川 清 明	説明員	教育部長	齊 藤 俊 彦
	委員	上 野 聡 志		教育部次長	渡 部 丈 司
	委員	郷 早 見	学校教育支援室長		
	委員	橋 本 幸 子		苺 谷 正	
	教育長	月 田 健 二	総務課長	大 村 勇 二	
			総務課参事	三 富 一 義	
			学校教育課長	伊 藤 忠 信	
			学校教育支援室参事		
				浦 田 和 秀	
				金 子 武 史	
			給食センター長	福 井 洋	
			対雁調理場長	鈴 木 正 春	
			生涯学習課長	岩 渕 仁	
			生涯学習課主幹	佐々木 倫 子	
			情報図書館長	原 田 昭 彦	
			郷土資料館長	小 林 則 幸	
			記録員	総務課総務係長	近 藤 澄 人
			傍聴者	4名	

1 報告事項

- (1) 平成26年度中学生国際交流事業について
- (2) 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

2 審議事項

- (1) 平成26年議案第51号
平成27年度江別市一般会計教育予算要求案について
- (2) 平成26年議案第52号
江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について

3 その他

- 各課所管事項について
 - (1) 道立高等養護学校設置に係る要望書の提出について
- 次回教育委員会予定案件について
- 平成26年第12回定例教育委員会の日程について

会 議 録

長谷川委員長	<p>(開会)</p> <p>それでは、ただいまから、平成26年第11回定例教育委員会を開会いたします。本日の議事日程は配付のとおりであります。</p> <p>会議に先立ち、本日の会議録署名人を上野委員さんをお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入ります。</p> <p>1の報告事項(1)平成26年度中学生国際交流事業についての報告を求めます。岩渕生涯学習課長お願いします。</p>
岩渕生涯学習課長	<p>平成26年度中学生国際交流事業についてご説明いたします。</p> <p>報告事項(1)の資料をご覧ください。今年度の事業については、12月4日から12月15日まで12日間での実施を予定しております。</p> <p>今回の訪問団のメンバーにつきましては、中段に記載のとおりであります。団長として、大麻東中学校の伊藤あかり先生に生徒の引率・指導をお願いし、全体調整を江別市英語指導助手のロバート・ヒギンズ氏をお願いしております。</p> <p>参加者は、中学1年生が1名、2年生が3名、3年生が2名の合計6名であります。</p> <p>各参加者は、今年度の派遣割当てに該当する中学校からそれぞれ推薦をいただいて決定したものでございます。</p> <p>旅行日程は裏面に記載のとおりですが、訪問する生徒につきましては、12月5日から12月10日までの6日間、各家庭にホームステイをし、家庭生活を体験するとともにゴードンラッセル中学校への体験入学により、同年代の生徒との交流を行います。</p> <p>また、12月12、13日の2日間は、大自然に触れたり、文化に触れ、国際理解や国際感覚などの見聞を広めるプログラムとなっております。8月28日の第1回目の事前研修会を皮切りに、全9回の事前研修を既に終え、11月21日金曜日に市長への出発のあいさつを行ったところです。以上です。</p>
長谷川委員長	<p>ただいま報告のありました平成26年度中学生国際交流事業について、質問等がございましたらお受けします。</p> <p>(質疑なし)</p> <p>それでは、本報告については終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p>
伊藤学校教育課長	<p>次に、報告事項(2)平成26年度全国学力・学習状況調査の結果についての報告を求めます。伊藤学校教育課長お願いします。</p> <p>報告事項(2)平成26年度の全国学力・学習状況調査結果についてご説明いたします。</p> <p>全国学力・学習状況調査は、文部科学省が平成19年度から始めたもので、平成26年度は4月22日に実施され、去る8月25日に文部科学省より江別市教育委員会にその集計結果が送付されました。その結果の分析が終わりましたので、ご報告するものであります。</p> <p>結果の報告にあたって、教科に関する報告の方法が昨年度と変更しておりますので、説明いたします。</p> <p>昨年度までは、江別市の平均正答率は数値による公表を行っていないため、全道平均または全国平均との差により、上回っている・同様である・下回っているなどのように表現しておりました。</p> <p>平成26年度の報告にあたっては、江別市全体の教科の平均正答数、平均正答率の数値を公表することとしております。これは、文部科学省が平成26年度の実施要領を変更し、都道府県教育委員会は市町村の教育委員会が同意した場合には、市町村名・学校名を明らかにした公表ができることになりました。</p> <p>これを受け、北海道教育委員会は道民に分かりやすく説明する責任があるとして、市町村名を明らかにした公表について、市町村教育委員会に同意を求めておりました。</p> <p>江別市教育委員会では、9月25日に開催された第9回定例教育委員会において、北海道教育委員会による数値の公表を含む市町村名を明らかにした北海道教育委員会による公表に同意したところであります。</p> <p>江別市教育委員会といたしましても、市民への説明責任があることから、同様に本年度から数値を公表することといたしました。以上が変更点でございます。</p> <p>それでは、資料の1ページをご覧ください。1番、調査の概要です。</p>

まず、1の調査の目的ですが、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することや学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるものであります。

次に、2の調査の対象学年及び調査を実施した学校、児童生徒数は記載のとおりです。江別市内の公立小中学校は全校で実施しております

3の調査の内容、4の調査の方式、5の調査の実施日は記載のとおりであります。

次にⅡの結果の概要であります。1番の教科に関する調査結果であります。全道との比較では、小学校、中学校ともにすべての教科において平均正答率が上回っております。

全国の平均正答率との比較では、小学校では、国語Aが上回っておりますが、他の教科では下回っております。一方、中学校では、すべての教科において上回っているという結果であります。

昨年度と比較しますと、昨年度は、小学校ではすべての教科が全国を下回っておりましたが、今年度は国語Aが全国を上回るとともに、他の教科においても全国より下回っておりますが、その差は縮小されております。また、中学校においては昨年度も全国をすべての教科で上回っており、同様の結果であります。

次に、2番の質問紙調査に関する結果の概要であります。児童生徒質問紙調査の結果では、平日に3時間以上テレビやビデオを見る割合は、全国平均を下回っていますが、平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、中学校3年生は全国平均を下回っていますが、小学校6年生は上回っています。

学校質問紙調査の結果では、授業中の私語が少なく落ち着いていると思う、礼儀正しいと思う割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っており、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

また、算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は全国平均を大きく上回り、ICTを活用した授業が積極的に行われています。

次に、Ⅱの各教科の結果であります。2ページから5ページにかけまして記載してあります。

まず、2ページをご覧ください。小学校の国語Aです。結果についてであります。右側の上段の表をご覧ください。江別市、北海道、全国の平均正答数と平均正答率を記載しております。

江別市の平均正答率は75.1で、北海道が71.8、全国が72.9で、全国を2.2ポイント上回っております。

下段の表は、学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率であり、記載のとおり、すべての領域で全国を上回っております。

左側のグラフは、正答数の分布グラフであります。棒グラフが江別市の状況で、三角の折れ線グラフが北海道、ひし形の折れ線グラフが全国であります。下の欄の横を見ますと、一番左が0問、一番右端が15問で、それぞれの正答数により、グラフを表示しております。江別市では、中間層より下が全国より少なく、中間層より上が多いということが分かります。

正答率の低い設問及び学習指導の改善点についてであります。国語Aを例に取りますと、勝利をいおうなど、漢字を書く問題の正答率が低いことから、新出漢字を繰り返し書いたり、既習の漢字を意図的に復習したりすることができるようにするほか、国語以外の授業でも、手紙や文章作成時に意味を考えながら正しく使うよう指導する必要があります。

また、言葉の意味と使い方を捉え、国語辞典を使って、はかるの言葉の意味と使い方を理解することの正答率が低いことから、国語辞典を利用することを習慣付けるとともに、同音異義や同訓意義の漢字を意図的に取り上げ、意味の違いや使い方を理解できるように指導する必要があります。

次に、国語Bの説明に入りますが、この後は平均正答率と領域別の特徴のみを説明し、正答数の分布グラフ、正答率の低い設問及び学習指導の改善点については、説明を省略します。

国語Bであります。江別市の平均正答率は54.4で、北海道が52.9、全国が5

伊藤学校教育課長	<p>5. 5で、全国を1. 1ポイント下回っております。</p> <p>領域別では、伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項が全国を上回っておりますが、その他の領域は全国を下回っております。</p> <p>3ページをご覧ください。算数Aであります。江別市の平均正答率は77. 8で、北海道が75. 8、全国が78. 1で、全国を0. 3ポイント下回っております。</p> <p>領域別では、数と計算が全国を下回っておりますが、その他の領域は全国を上回っております。</p> <p>次に、算数Bであります。江別市の平均正答率は56. 8で、北海道が55. 2、全国が58. 2で、全国を1. 4ポイント下回っております。</p> <p>領域別では、図形が全国を上回っておりますが、その他の領域は全国を下回っております。</p> <p>4ページをご覧ください。次に中学校に入ります。国語Aにつきましては、江別市の平均正答率は80. 2で、北海道が79. 4、全国が79. 4で、全国を0. 8ポイント上回っております。</p> <p>領域別では、読むことが下回っておりますが、その他の領域は全国を上回っております。</p> <p>次に、国語Bであります。江別市の平均正答率は52. 0で、北海道が49. 9、全国が51. 0で、全国を1. 0ポイント上回っております。領域別では、すべての領域で全国を上回っております。</p> <p>5ページをご覧ください。数学Aであります。江別市の平均正答率は68. 3で、北海道が66. 0、全国が67. 4で、全国を0. 9上回っております。</p> <p>領域別では、すべての領域で全国を上回っております。</p> <p>次に、数学Bであります。江別市の平均正答率は62. 6で、北海道が59. 4、全国が59. 8で、全国を2. 8ポイント上回っております。</p> <p>領域別では、すべての領域で全国を上回っております。</p> <p>6ページをお開きください。Ⅳ、質問紙調査の結果です。</p> <p>まず、1番の児童生徒質問紙の結果で、6ページから8ページの上段までに記載しております。</p> <p>児童生徒が学習習慣や生活習慣等について回答したものであり、家庭の生活のほか、8項目について、学力や生活習慣などの特徴的なものを記載し、合わせて改善に向けた取組を四角で囲んだ部分に記載しております。</p> <p>(2)の自己肯定感の②自分には、よいところがあると思う、どちらかといえばあると思うの回答率が、全国平均より低い状況であり、一人ひとりのよさや可能性を見つけて伝えたり、将来就きたい仕事や夢について考えさせたりする指導が全国より高い割合で実施されていますが、家庭や地域等と連携し、さらに充実する必要があります。</p> <p>また、(4)の平日に学校の授業以外に1時間以上勉強するという回答は、全国平均より低い状況であります。家で、自分で計画を立てて勉強している、どちらかといえば、しているという回答は、全国平均より高い状況であります。</p> <p>家庭学習は学習内容を確実に身に付けるために必要であり、学校からの宿題はもとより各家庭において学習に取り組む時間帯やテレビを見る時間、ゲームをする時間等について望ましい生活習慣を確立し、休日も含め毎日取り組むようにする必要があります。</p> <p>次に、8ページをお開きください。2番の学校質問紙であります。</p> <p>学校の教育活動等について学校が回答した結果であり、学習態度・礼儀正しさのほか、4項目について、学力向上等の取組の中から特徴的なものを記載し、合わせて四角で囲んだ部分が改善等に向けた取組であります。</p> <p>(1)の学習態度、礼儀正しさ、(2)の長期休業中の学習サポートは大きく全国平均を上回っており、学校における取組が表れているものと考えております。</p> <p>また、(4)のICTを活用した授業についても、全国平均と比較して大きく上回っており、昨年度配置した電子黒板が有効に活用されているものと考えております。</p> <p>続きまして、10ページから22ページにかけましては、児童生徒質問紙と学校質問紙に記載した項目について、グラフにした資料を添付しておりますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。</p> <p>続きまして、23ページをご覧ください。江別市学校改善支援プランであります。</p>
----------	---

伊藤学校教育課長	<p>まず、全国学力・学習状況調査の結果、明らかになった課題については、先ほどの調査結果の課題で説明したとおりであります。アでは、国語の漢字の書き取りや算数・数学の計算問題等、基礎学力を確実に定着すること、イでは、学力の2極化傾向が見られることから、学習内容の習熟・定着を重視した1単位時間の学習過程や指導方法等の工夫改善、電子黒板などICTの積極的な活用、放課後や長期休業中の補充的な学習サポートの充実の必要があります。</p> <p>また、ウでは、家庭学習の定着や望ましい生活リズムの確立や、エに記載しておりますように自尊感情を高める心の教育の充実、オでは、更なる読書活動の充実、カでは地域の人材や活用内容をさらに拡充していくことが必要であります。</p> <p>資料の下段、左側は問題解決に向けた学校の取組となっております。右側が、学校に対する教育委員会の支援であります。こちらは、14項目に渡りまして列挙しております。現在実施しているものであり、今後も継続して実施をしていく予定であります。</p> <p>特に、1の学校の取組への支援では、(3)児童生徒の生活・学習状況についても資料等の提供をしていきたいと考えております。</p> <p>2番の教職員の指導力向上に向けた支援の(1)江別市教職員セミナーの開催では、北海道立教育研究所などとの連携を強化し、充実したものにしたいと考えております。</p> <p>また、全学級に電子黒板が配置となったことから、電子黒板を活用した授業展開や理科の実験に関する研修など、教職員の要望の強いものについては充実を図ってまいります。</p> <p>また、3番の物的・人的支援の(1)小中学校学習サポート事業は、学校側からの派遣要望も強く継続して実施してまいります。(6)ICTについても、研修の充実と合わせて、計画的な更新と整備に努めていきたいと考えております。</p> <p>これら分析結果と支援プランについては、来月の校長会におきまして、各学校に情報提供を行い、市教委と学校が連携・協力し、江別市学校改善支援プランの取組を通して、教育指導や学習状況の改善を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>なお、平成27年度の全国学力・学習状況調査につきましては、平成25年9月12日付けで文部科学省から通知があり、平成27年4月21日に小学校6年生と中学校3年生の全児童生徒を対象に、国語、算数・数学、理科で実施されます。</p> <p>江別市内の公立小中学校にあっては、対象児童生徒全員が原則参加することで進めてまいります。以上です。</p>
長谷川委員長	<p>ただいま報告のありました平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について、質問等がございましたらお願いします。</p>
橋本委員	<p>各学校で全員が受けて調査されたと思うのですが、病欠等で受けていない児童生徒は何人くらいいましたか。</p>
伊藤学校教育課長	<p>詳細は把握しておりません。後日、報告したいと思えます。</p>
橋本委員 長谷川委員長 上野委員	<p>分かりました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>質問ではないんですけれども、全体的に小学校も中学校も伸びてきていますね。中学校に関しては、全国平均を上回っていますが、この何年間か見せてもらっている中で、小学生に関しては、国語Bがなかなか伸び悩んでいるのかなと感じています。</p> <p>その辺はこれから改善していくのだろうと思いますけれども、是非全国を上回るができるようお願いしたいと考えております。</p>
長谷川委員長 月田教育長	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>8ページに学校質問紙がありまして、授業中の私語について記載されていますが、中学校3年生は、先生方は100パーセントということで非常に高い評価をしております。その具体的なものは19ページにありまして、その表でも、江別市教育委員会は100パーセントになっています。これはすごいなと思いました。</p> <p>この間、野幌中学校で研究会がありまして、授業を見せていただきましたけれども、本当に子供たちはみんな素直に先生方の話を聞いたり、級友の話を聞いたり、落ち着いているところでした。この辺が子供たちの学力にも、非常に良い影響を与えているのではないかと思います。</p> <p>また、8ページに記載されていますけれども、長期休業中の学習サポートも、全国よりもかなり進んでおります。さらに、9ページにICTを活用した授業とありますが、この</p>

月田教育長	調査のときには、まだ電子黒板は半分しか入っていませんでした。そのときの資料ですので、そんなにパーセンテージは上がっていないんですけれども、来年はもっともっとパーセンテージは上がっていくのかなと思っています。以上です。
長谷川委員長	一点確認ですが、各学校に対する支援として、各学校を1校ずつ訪問していると思います。今回の調査結果では、平均はこういう形になっていますが、訪問の際は、市内の学校ごとに踏み込んだ話もしますよね。
伊藤学校教育課長	結果は8月25日に来ておりますけれども、9月下旬から10月上旬にかけて、江別市教育研究所の事務局長と江別市教育委員会の指導主事の2名が各学校を訪問し、江別市の状況を説明します。
長谷川委員長	また、各学校での改善プランを作成しておりますので、プランの内容を事細かに聞くとともに、江別市の支援やほかの学校の取組などを紹介して、各学校での改善に役立てるということで、ひと通り訪問は終了しております。
上野委員	先日、石狩管内の教育委員研修がありました。今、伊藤課長が言われたような体制で回っているという話をしたら、他の教育委員会から、江別はそういう体制があって非常に良いですねと言われました。そういった体制が整っていますから、個々の学校に対して、個別の指導ということで、是非今後も続けながら、全体の向上を図っていただきたいと期待しております。よろしく願います。ほかはいかがでしょうか。
伊藤学校教育課長	朝食を毎日食べていますかという質問があり、早寝早起き朝ごはん運動というフレーズは毎年、毎年聞いておりますけれども、いまだにパーセンテージとしては小学校で1.3、中学校で1.9です。これは何も食べていないということだと思っておりますけれども、地域性のようなものはありますか。
長谷川委員長	特に地域性というものは見られないです。
郷委員	ほかはいかがでしょうか。
伊藤学校教育課長	今、地域性の話が出たんですけれども、例えば、江別地域、大麻地域、野幌地域の地域ごとで、学力のことは少し細かくなってしまうんですが、毎日朝ごはんを食べていますかという部分は、地域ごとにパーセンテージを出すのは大変なことですか。
郷委員	学校ごとの集計結果が教育委員会に来ますので、学校ごとにどのくらいというのは、すぐ出すことはできます。
伊藤学校教育課長	地域性ではありませんが、こういうところが劣っているとか、こういうところがパーセンテージに表れているということではできそうですか。
郷委員	個別に学校の状況を出すのがいいのかどうかという部分がございまして、ご指摘の部分も含めて、どういう形がいいのか少し考えてみたいと思います。
長谷川委員長	数字をそのまま使用して、良い学校、悪い学校のように出してしまうと、それはそれで教育的配慮が必要だと思いますので、こういった形がいいのか考えてみたいと思います。
郷委員	細かくはいらないですけれども、今、地域性の話が出たのでどうなのかなと思ひ、質問してみました。ありがとうございます。
長谷川委員長	ほかはいかがでしょうか。それでは、本報告について終了してよろしいですか。(一同了承)
齊藤教育部長	続いて、2の審議事項に入ります。 平成26年議案第51号平成27年度江別市一般会計教育予算要求案についての説明を求めます。齊藤教育部長お願いします。 本件は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条において、地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならないと定められていることから、この規定に基づく教育委員会の意見聴取の前段として、教育予算要求の主な内容をご審議いただこうとするものであります。 本年度に続き、次年度も学校の耐震改築工事が行われるため、予算要求額が巨額に上がることが予想されます。経常費は財政当局へ提出済みであります。臨時費は本日が予算要求期限となっております。一部、不確定な要素もあり、要求金額や内容に今後変更が生じる場合がありますことをご承知置き願います。 この後、予算要求方針につきましては総務課長から、各事務事業につきましては各所管課長から、順次ご説明させていただきます。

長谷川委員長 大村総務課長	<p>それでは、順次お願いいたします。</p> <p>まず、資料の2ページに記載しております来年度の教育予算要求方針について、ご説明いたします。</p> <p>江別市では、今年度から、第6次総合計画でありますえべつ未来づくりビジョンがスタートしました。その基本理念の一つとして子育て応援のまちを掲げています。この理念の実現に向けて、教育部では教育振興のための3計画、学校教育基本計画、社会教育総合計画、スポーツ推進計画に基づき、教育施策を推進する方針のもとに予算要求します。</p> <p>主要なものは記載の3点です。1点目は、全市的に取り組んでいる安全安心の確保のため、学校の校舎・屋体のほか、社会体育施設の耐震化を継続して行うとともに非構造部材の耐震対策を進めていこうというものです。</p> <p>2点目は、学力向上には基礎学力の定着が大切なことから、引き続き退職教員等による学習サポートを推進するほか、ICTを活用した授業を進めていこうとするものです。</p> <p>3点目は、生涯学習活動、文化・芸術活動の振興を図るため、公民館や文化ホールの維持・修繕を適切に行っていこうというものです。詳しくは、それぞれの所管課長等から順次ご説明いたします。</p> <p>それでは、各課長の説明につきましては、資料の綴りの順に行います。</p> <p>まず、総務課でございます。資料の3ページをご覧ください。</p> <p>現在、新年度事業として予定しております総務課の主な事業について、ご説明いたします。</p> <p>まず、学校の校舎屋体耐震化事業といたしまして、江別太小学校及び江別第一中学校の改築工事を引き続き実施するほか、江別小学校と江別第三小学校の統合校にかかる改築工事を行います。また、屋内体育館の非構造部材の耐震対策を計画的に進めてまいります。</p> <p>次に、遠距離通学送迎事業といたしまして、江北地区、豊幌地区、東西野幌地区、角山地区の4路線について、スクールバス及びスクールタクシーを運行し、登下校時における児童生徒の安全確保を図ってまいります。</p> <p>このほか、私立高校への助成金は、札幌地区私立中学高等学校PTA連合会から要望を受けているところであり、厳しい財政事情の中で現行補助金額を確保いたします。総務課からは以上です。</p>
伊藤学校教育 課長	<p>続いて、学校教育課所管分の主要事業について説明いたします。</p> <p>資料の4ページをご覧ください。学力向上関係では、子供たち一人ひとりの確かな学力の定着を図るため、小中学校学習サポート事業において、昨年度に引き続き、授業におけるティームティーチングや少人数指導、長期休業中や放課後学習に取り組むため、学習サポート教員を学校に派遣いたします。</p> <p>小学校外国語活動支援事業では、外国語活動が必修である5・6年生のほか、平成26年度からは3・4年生において外国語活動を開始いたしました。平成27年度からは全小学校1・3年生についても外国語活動を実施いたします。</p> <p>体力向上関係では、児童生徒体力向上事業において、市内の小中学校に北翔大学の教授と学生を派遣し、各学校の実情に応じた子供たちの体力向上授業に継続して取り組みます。</p> <p>ICT関係では、情報教育推進事業において、ICT環境整備のため、中学校3校の教育用パソコンの更新を行います。また、現在改築工事を行っている江別太小学校、江別第一中学校には校内有線LANの整備を行っていきます。</p> <p>これらのほか、学校図書室事業、社会人による教育活動等支援事業、キャリア教育推進事業を継続して実施します。以上です。</p>
浦田学校教育 支援室参事	<p>続きまして、資料の6ページをご覧ください。特別支援教育担当参事所管の主要事業についてご説明いたします。</p> <p>特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、本来持てる力が発揮できるように、特別支援学級生活介助事業では、生活介助員の配置や特別支援学級の運営に必要な教育環境の整備を進めていきます。</p> <p>特別支援教育推進事業では、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育補助員の配置や研修会の開催、専門家チームの巡回相談などにかかる経費のほか、肢体不自由児のための段差解消や教室内の工事等を実施いたします。説明は以上です。</p>
金子学校教育 支援室参事	<p>続きまして、資料の6ページをご覧ください。学校教育支援担当参事所管の主要事業についてご説明いたします。</p>

金子学校教育 支援室参事	いじめや不登校、問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応のための事業として、問題行動対策事業や、いじめ・不登校対策事業を継続し、ネットトラブルへの対策も進めていきます。
福井給食セン ター一長	<p>また、悩みを抱える子供たちや保護者のため、スクールカウンセラー事業や心の教室相談事業により、相談体制の充実を図るほか、子供たちが抱える様々な問題の解決を図るため、引き続き、スクールソーシャルワーカー事業を実施します。</p> <p>また、学校適正配置推進事業については、江別小学校と江別第三小学校の統合による江別第一小学校の開校に向けて、仮設校舎への引越しや閉校記念行事等を実施します。以上です。</p> <p>資料の7ページをご覧ください。給食センターの新年度の主要事業について、ご説明いたします。</p> <p>食育の推進につきましては、江別市学校給食食育運営委員会において取りまとめました江別市の公立小中学校における食育の推進について、各小中学校に提示いたしました。</p> <p>今後は、それに沿って校内体制の充実を図り、また学校における食に関する指導の全体計画の改善・充実を図る中で、食育の推進で示した具体的な例を参考として、各小中学校の特色に応じた食育推進の取組を実践していくこととなります。</p>
岩渕生涯学習 課長	<p>また、学校給食へ地場産の米、麦や野菜など安全安心な食材を安定して提供するとともに、さらに加工品等を含め、地場産品の使用拡大を図ってまいります。以上です。</p> <p>続きまして、新年度事業として予定をしております生涯学習課の主要事業について、ご説明いたします。</p> <p>資料の8ページをご覧ください。生涯学習係所管の生涯学習に関する事業につきましては、多種多様化している市民ニーズに対応するため、知的資源の有効活用を図るとともに、効果的な学習機会の確保など、生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりに努めます。</p> <p>27年度は、公民館施設補修整備市民文化ホール施設改修事業が大幅に増額となっておりますが、これは、老朽化が進む公民館等の補修を行うもので、コミセンホールの音響設備更新、野幌公民館の受変電設備更新・非常用発電機更新、大麻公民館の非常照明用バッテリー更新、市民文化ホールの音響設備更新などに係る経費を要求しております。</p> <p>続きまして、文化振興に関する事業につきましては、優れた文化・芸術作品鑑賞機会の充実を図るとともに、市民団体が主体的に行う舞台芸術や展示発表や次代を担う子供たちを育む参加創造型の取組を支援し、市民と共に創造する文化活動の充実に努めます。</p> <p>27年度は、市民芸術祭開催事業が増額となっておりますが、これは、28年度に開催予定の市民ミュージカルの脚本及び作曲に要する経費であります。</p> <p>9ページをご覧ください。青少年・スポーツ振興係所管分です。まず、青少年に関する事業ですが、子供の可能性を引き出す教育を実践するため、基本的な生活の場である家庭・学校・地域と連携し、主体性や社会性を育むボランティア活動・自然体験・社会体験など各種事業を推進するほか、活動団体等への支援を通じて子供たちの健全育成を図ります。</p> <p>27年度の主な変更点ですが、子どもを見守る地域ふれあい事業は、生涯学習係所管の類似する事業に予算を移行し、課内の事務手続の効率化を図るものです。</p> <p>また、ジュニアリーダー養成事業は、現状では年2回の開催であり、ジュニアリーダーの養成という目的達成は難しい面があるため、継続的な講習や体験活動に参加できるよう、参加者の組織化、事業の体系化を図っていくこととします。</p> <p>青少年キャンプ村事業中学生国際交流事業小中学生国内交流事業の増額につきましては、バス借上げ料の値上げや航空運賃の値上げによるものです。</p> <p>スポーツ振興に関する事業につきましては、27年度は屋内・屋外体育施設管理運営事業で増額となっておりますが、これは電気料金の値上げに伴うものです。体育施設整備更新事業の減額につきましては、今年度、市民体育館の耐震補強工事を行っており、その分が減額、ほかの維持修繕等に関する経費の増額と合わせた結果であります。</p> <p>なお、体育協会やスポーツ少年団への補助は若干増額となっておりますが、これは、年々団員が減少傾向にありますスポーツ少年団への補助を強化し、活動を支援していこうとするものです。以上です。</p>
原田情報図書 館長	続きまして、資料の10ページをお開きください。情報図書館所管の主な事業についてご説明いたします。

原田情報図書館長	<p>読書普及活動事業では、子供たちが絵本や童話を読みながら感性を育むとともに、保護者に対しても図書への感心を高める機会として、おはなし会を開催いたします。</p>
小林郷土資料館長	<p>また、子どものための読書環境整備事業では、小中学校の学校図書館へ司書が巡回し、読書環境の整備を進めるとともに、学校からの要望を踏まえながら、朝読書や調べ学習等の教育活動を支援し、児童生徒の学力向上を図ります。</p> <p>次に、図書館資料整備事業では、利用者の様々な要望にお応えできるよう、幅広い分野の資料を収集してまいります。</p> <p>次に、図書館運営管理事業（江別太小学校図書館地域開放事業）では、江別太小学校改築に合わせ、小学校図書館を地域開放し、図書資料の閲覧、貸出しを行い、地域住民の利便性の向上を図るとともに、生涯学習の機会や情報の提供に努めます。以上です。</p> <p>資料の11ページをご覧ください。郷土資料館所管の主な事業についてご説明いたします。</p>
長谷川委員長 橋本委員	<p>ふるさと江別塾～「江別を学ぶ」開催事業は、市民が郷土の歴史や文化を学ぶ事業を引き続き実施いたします。</p> <p>野幌太々神楽伝承会補助金は、同会から伝統芸能保存と普及活動への支援要望を受け、現行補助金額を要求するものです。</p> <p>セラミックアートセンター企画展開催事業は、社団法人日本クラフトデザイン協会とともに動物をテーマにした日本クラフトデザイン展ほか、計3本の企画展を実施いたします。</p> <p>次に、セラミックアートセンター改修事業といたしまして、開館から20年を経過し、経年劣化している電話設備などの整備を行い、快適な施設環境を保持いたします。以上です。</p>
大村総務課長	<p>ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けします。</p> <p>3ページ目の小中学校校舎の耐震化ですが、あとどのくらい残っているのでしょうか。</p> <p>また、10ページの情報図書館で、江別太小の図書館を地域に開放すると書かれていますが、ほかの学校も随時そのようにしていくと考えているのか、この二点について質問します。</p>
原田情報図書館長	<p>校舎屋体の耐震化につきましては、先ほどご説明しましたとおり、小学校については江別太小学校と、江別小学校と江別第三小学校の統合校になる江別第一小学校になります。中学校については、江別第一中学校になります。これですべてになります。</p>
橋本委員 原田情報図書館長	<p>地域開放事業については、豊幌小学校で行っています。それから、改築に合わせて江別太小学校で地域住民の要望が非常に高かったので、小学校図書館の開放を行いますけれども、それ以外の小学校については現在のところ考えておりません。</p>
長谷川委員長 郷委員	<p>豊幌小学校の開放では、職員を配置して図書の貸出しなどを行っているのですか。</p> <p>豊幌小学校で行っている地域開放事業につきましては、土曜日、日曜日、水曜日、水曜日については児童が帰った後になりますが、図書館司書1名とそれから補助員2名を配置して運営しております。今、考えておりますのは、それに倣うような形で運営を考えております。</p>
大村総務課長	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>3ページですけれども、スクールバス及びスクールタクシーの運行となっておりますが、スクールタクシーはどのようなものですか。</p>
郷委員 大村総務課長	<p>現在、すべてスクールバスで運行しておりますけれども、江北地区、東西野幌地区、角山地区について、タクシー運行を予定しているもので、普通の小型乗用タクシーを利用いたします。運転手を入れて5人乗りのタクシーで、助手席と後ろに3人乗るような形になります。</p>
郷委員	<p>児童数が少ないというか、登校する児童生徒が少ないということなののでしょうか。</p> <p>例えば、豊幌地区の江陽中ですが、現在想定している生徒数が71名になるので、これについてはバスを運行するという形になります。</p> <p>他の地区については、ほぼ10名を切るような人数なので、タクシーを利用することになります。ただし、あくまでも予算になりますので予定ということで決定ではありません。</p> <p>今までバスが走っていた所も、タクシーによって予算額を減らすことができるということも含めてなのかなと思いました。タクシーになるかどうか、今のところはまだ予定ということですか。</p>

<p>大村総務課長 郷委員 長谷川委員長 上野委員</p>	<p>まだ、予定です。 ありがとうございます。 ほかはいかがでしょうか。 4ページの情報教育推進事業で、中学校の教育用パソコンの入替えは3校ということで、来年はどこを予定していますか。</p>
<p>伊藤学校教育課長 長谷川委員長 郷委員</p>	<p>来年度更新を予定しています中学校は、大麻中学校、大麻東中学校、江陽中学校の3校であります。 ほかはいかがでしょうか。 4ページの学校教育課で、キャリア教育はほとんどの中学校が行っていると思いますが、予算は各学校に対して配分しているのか。それとも、要求があるのか。また、この予算はどういったことに使用されているのか、分かる範囲でお願いします。</p>
<p>伊藤学校教育課長</p>	<p>キャリア教育をひと口で言うと、非常に幅広いものがあるのですが、こちらで該当しているのは、生徒が市内の事業所で職業体験をするというものでございます。 これに関わる予算につきましては、教育委員会で各学校にいくらということで配分しております。配分しているのは、一般報償費ということで、職業体験に行く前にマナー講習を行います。研修に来る講師の謝礼分の費用でございます。 また、消耗品として、各学校に割当てをしております。各学校での使い道は、それぞれですけれども、主には各事業所の入口に、何々中学校キャリア教育職業体験実施中というようなプレートを付けたり、名札を作ることに活用しております。 そのほか、切手代も各中学校に割当てをしております。これは職業体験が終わった後に、生徒から企業への礼状の発送や企業にアンケート回答をしていただいておりますので、郵送料として切手代を各学校に配分しております。以上です。</p>
<p>郷委員 長谷川委員長</p>	<p>ありがとうございます。 ほかはいかがでしょうか。それでは、平成26年議案第51号平成27年度江別市一般会計教育予算要求案について承認することにご異議ありませんか。</p>
<p>伊藤学校教育課長</p>	<p>(一同了承) それでは、そのように承認いたします。 次に、平成26年議案第52号江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定についての説明を求めます。伊藤学校教育課長お願いします。 平成26年議案第52号江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について、ご説明いたします。 1番の改正理由であります。3点ございます。 まず、1点目は、学校教育法施行規則の一部改正により、学校を設置する地方公共団体の教育委員会が必要と認める場合は、土曜日等に授業を実施することが可能であることが明確に定められたことから、市内小中学校においても同様の取扱いが適用となるよう改正を行うものであります。 2点目は、北海道教育委員会では、平成26年5月30日付けで北海道立学校管理規則を改正し、道立学校長が承認可能である職務専念義務の免除に該当する業務について、現行で認められている業務に加え、教職員が教育関係の任意団体に関わる業務の一部についても職務専念義務免除として承認できるよう取扱いが整理されたことから、市立小中学校に勤務する校長においても、道立学校長と同様に取扱いが明確となるよう改正を行うものであります。 3点目は、字句の整備を行うものであります。以上の理由によりまして、江別市立学校管理規則の一部を改正するものであります。 説明の都合上、資料の5ページの新旧対照表をご覧ください。表の左側が改正前、右側が改正後であります。 第22条の改正は、土曜授業の実施に関わる改正であります。 第4項では、特に及び括弧書きを削除し、設置者の判断で土曜授業が実施できるようにするものであります。 改正後の第5項では、休業日を授業日とした場合で、他の授業日を休業日としないときには教育長に届けるよう新たに規定をするものであります。 改正前の第6項は繰り下げて、改正後の第6項とし、改正前の第6項は、改正後の第6項の届け出との関係で、削除するものであります。</p>

伊藤学校教育課長	次に、資料の7ページをご覧ください。第39条の改正は、職務専念義務免除に関わる改正であります。
長谷川委員長 上野委員	改正前の第2項では、校長とその他の職員の職務専念義務に関して、その承認権限を有する者や内容について規定されておりますが、改正後では第2項では、校長の職務専念義務に関する内容を、第3項ではその他の職員に関することに分けて規定するとともに、新たに教育関係の任意団体にかかわる業務として、第1号から第5号までを列挙しております。その他の条文の改正につきましては、字句の整備に伴う改正であります。 1ページをご覧ください。2番の改正規則であります。3ページから4ページに記載のとおりであります。 なお、施行期日につきましては、平成26年12月1日といたしますが、第22条関連の土曜授業の実施に関わる改正につきましては、平成27年4月1日といたします。以上です。ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。 ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けします。
伊藤学校教育課長 長谷川委員長	1ページの改正理由(2)で、職務専念義務の免除とありますが、任意団体というのは、例えば、PTAのような解釈でいいのでしょうか。 任意団体は、江別市教育研究会や石狩管内教育研究会、その他、校長会、教頭会等そういった団体が含まれるものです。 ほかはいかがでしょうか。それでは、平成26年議案第52号江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定についてを承認することにご異議ありませんか。
浦田学校教育支援室参事	(一同了承) それでは、そのように承認いたします。 続いて、3のその他に入ります。この際、各課から何か報告することはございませんか。浦田参事お願いします。
長谷川委員長	道立高等養護学校設置に係る要望書の提出について、報告いたします。 大麻元町にある札幌盲学校は、今年度末で閉校が決定されており、江別市では、この跡地に高等養護学校の設置を要望するため、平成23年11月に、江別市への高等養護学校誘致期成会を設立し、平成24年2月に道議会へ請願書を、道知事、道教委へは要望書を提出いたしました。 今年の9月に、北海道教育委員会から平成27年度公立特別支援学校配置計画が公表され、27年度の設置計画、28年度の設置の見通しが示されましたが、江別市での設置については、結論が出ておりません。 このような状況から、10月28日開催された高等養護学校誘致期成会の第4回総会において、平成29年度設置に向けて、道知事、道教委へ要望書を提出することを決定し、今月21日に、江別市長、期成会会長・副会長名で要望書を提出いたしました。以上です。
大村総務課長	ただいまの件につきまして、質問等はございませんか。 (質疑なし) それでは、本報告については終了いたします。 次に、次回定例教育委員会予定案件及び日程について説明願います。 次回の教育委員会の案件でございますが、報告事項として、平成26年第4回江別市議会定例会の一般質問について、平成26年度第2回学校一斉公開アンケート集計結果について、平成27年成人のつどいの開催について、審議事項として、平成25年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について、平成27年度江別市一般会計教育予算要求案についてなどを予定しております。
長谷川委員長	また、次回、定例教育委員会の日程でございますが、12月24日水曜日、午後2時からと考えておりますが、各委員のご都合等はいかがでしょうか。 今ありましたように、次回の定例教育委員会を12月24日水曜日、午後2時からということではよろしいですか。 (一同了承) では、以上をもちまして、第11回定例教育委員会を終了いたします。 (閉会)

終了 午後3時10分

署名人（委員長） 長谷川 清明

署 名 人 上野 聡志